

内郷村報

天法人別
ニ從順ナ
ルベシ

内郷村報の 六大使命

- 一、政權政黨を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内公私各種機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、組織和進努力の實現を期す。
- 三、本村社会事業の徹底を期す。
- 四、村内の慈善興行を奨励し、且之を獎勵す。
- 五、本村に本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、餘餘力を以て、國民善導に當る。

淺野大社長の追悼式と 磐城炭礦の努力月

大内民惠

一、緒言
我故淺野翁は、天下の淺野翁であつたと共に、我内郷村は、人口三萬天下一の大村である。而して其大村を成したる所以は、磐城炭礦のあるが爲めであり、其磐城炭礦は、故淺野翁によつて、創立經營せられたものである事は、茲に改めて申す迄もない。故に我故淺野翁と、我内郷村とは、密接不離の關係にある事も、亦説明を要さない次第である。其翁逝いて七年、今十一月九日は、其祥月命日であつた。此日磐城炭礦に於ける全職員及全役付従業員は、



翁野淺故

特に關係深き人々を來賓に請じ、故翁の徳を頌し、故翁を記念する爲に、當年の全職員全従業員によつて、建立せられた、因縁深き其頌徳記念館に於て、正面中央、故翁の銅像前に、積功院殿偉業總成大居士の地位を安置したる、靈壇を設け、瑞芳寺住職宮下秀貫師以下四人の役僧によつ

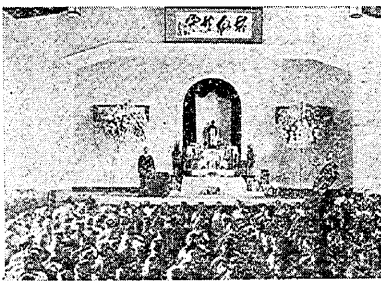
力努總和親總
!!月力努!月一十

一、淺野大社長がなくなつてから最早滿六年來る十一月九日は、祥月命日に當りますので、八日の公休を九日に變更して記念館で御七年忌の法事を営みます。一般の方々も同日午後一時、同七時迄の間に御銘々御參詣下さい。一月の一月を努力月と定め、此の十一月は特別にお互ひ満身の力をこめて仕事に勉強しませう。

一人も怠けるものゝないようになり、一人も怪我あやまらぬようになり、

磐城炭礦従業員各位
磐城炭礦礦業所
二、磐城炭礦礦業所

昭和十一年十一月一日



面正場式悼追
景光の擧換長所原菅

て、鄭重なる供養が執行せられ、參列者一同によつて深厚なる追悼式が舉行せられたのである。而して向磐城炭礦に於ては、故翁の遺訓たる「努力」を特に體得實現すべく、此十一月を努力月と定め、全山を擧げて、努力精勵する事としたのである。

我内郷村報は、こゝに鑑みる處あつて、特に今十一月を以て、淺野大社長追悼

- 一、來賓、二八名。二、職員、助手及實習員、五一二名。現、元役付従業員、四七五名。計一〇一五名。
- 三、式次
一、開式の辭 猪狩 勞務係 上原 勞務主任
二、御開帳 新谷 勞務係 宮下 秀貫師 外四名
三、讀經 菅原 萬治郎 伊藤 福松
四、祭詞奉讀 菅原 萬治郎 伊藤 福松
五、燒香 濱崎 善三郎 森戸 傳之丞 根本 壽政 大賀 楠吉 田寺 茂賢

四、菅原所長祭詞
白髮童顏努力の結晶とも申すべき吾等の慈父、淺野大社長逝かれてから月日は夢の如く最早滿六年を経過致しました。本日は故翁の祥月命日に當りますので、茲に職員一同並に役付の従業員が集り、追悼式を行ふ次第であります。大社長が事業界の偉人として國家に盡された勳功は誠に絶大なることは申すまでもありませんが、我が磐城炭礦に於ては、明治十六年に小野田炭礦を開礦せられて以來、永年の間社長として事業の隆盛に盡力せられた私共従業員一同を勵まし御指導下さいましたことを思ひ、今更ながら大社長の御恩徳の宏大なることを感ずる次第であります。私共は絶えず大社長の御遺徳の有難きを憶ひ、御厚恩の萬分の一でも御恩報じを致したいと、御遺訓を確守りまして日夜業務にいそいで居ります。

我社の事業は、日に月に發展致しまして、今や第二磐城炭礦長倉坑の創業を見るに至りました。之からも尚一層従業員一致協力して事業に精進する覚悟であります。何卒陸ながら御指導下さる様御祈りする次第であります。

磐城炭礦株式會社
第二磐城炭礦礦業所
礦業所長 菅原萬治郎

本紙發行は大内一家の事業にして、其の社風は子孫に對する遺言を傳ふるものなり。

野木 力
濱崎 善三郎
水野 忠治
橋本 本壽
大越 惣一郎

大杉 矢野
高萩 山郷
佐重 朝倉
朝倉 勇光

一、公民道ノ確立振作。二、選舉ノ肅正。三、自治ノ淨化刷新。四、經濟更生。五、社會教育。

十月二十六日より二日間、生徒數品展覽會を開催。出品數一三三七点。賣上總額一〇七圓八七錢。食堂賣上げ五〇圓八三錢の好成績

◎本紙贊助金寄贈芳名
金壹圓 磐城 某
金貳圓 平町 大嶺
金貳圓 庫氏

五、伊藤總代祭詞

私共五千人の従業員に對して、努力を盡すに追いつく貧乏な言ひ、千萬元の後までも貧乏な言ひ、教訓をのこされた。淺野大社長が逝かれてから六年になり、本日は其の御七回忌の祥月命日に當り、その御七回忌の追悼式を由緒最も深かき、此の記念館で取り行はれ、元々の多敷を茲に列席せられて、百八十三名の多敷を茲に列席せられて、頂きました事は、私共大社長の高大なる御恩徳を蒙りました者に、誠に光榮さし有難く感激致して居る次第であります。大社長



景全館念記徳頌翁野淺

世に在かれし時には、御老體にも拘らず何日も此の山に御見えになり、若し若しにも取れない御元氣で私共従業員に對して、上下の隔てなく何時もにこやかに慈愛語で呼びかけられました事を、思ひ起すのであります。私共が愛さず居る旗印として、仕事に私共が愛さず居りますのも、皆は大社長の御恩徳の賜であるさ、深く感じて居ります。私共は此の有難い努力を、今後御遺訓を決して忘れません。今後共全山の従業員が一層心を協せて事業に精進致しますことを、一同を代表致しまして大社長の御前で誓ふものであります。

六、菅原所長の挨拶

前社長淺野野一郎翁が、八十三歳の御高齡で、光輝ある御生涯を終られてから、早くも六六六を經過し、本日が丁度七回忌の祥月命日に相當致したもので、茲に追悼式を舉行致したのであります。式に當り、御多忙の折柄にも拘らず、枉げて御臨席下さいまして、誠に光榮に存する次第であります。失禮では御座りますが、此席より淺野翁は常に産業開發を念じ、或は炭礦、或はセメント、或は造船其他理立水力發電等各種の事業を經營統率されまして、殆ど寧日なしに、東奔西走されたのであります。随つて國家に盡された功績も、亦實に偉大で、晩年勳三等を賜はり、其赫赫たる功勞を賞せられた、居ります。

翁の御一生は、翁が終生信條された「努力」「務めに追いつく貧乏なし」の實踐行であり、文字通り奮闘努力の歴史であり、功績であります。然して事業に於ては、少しも停止する所なく、常に積極的の前進を續け居られました。常磐城炭礦の事業に就いても、勿論翁は非常な關心を持たれ、御見えになった事は、諸君も御承知の通りであります。あの温顔を以つて、吾々従業員を指導され、鞭撻されたのであります。私共は、今も尚其高貴の御恩徳を追慕仰じて止まないものであります。此の記念館の如きも、大社長の恩徳を追慕する、役付鐵夫諸君の發起に、出資し全従業員は元より、社外の人々までも、出資し、賑金を出して、昭和八年五月出来上つたものであります。百回の催があり、深山の名士の方も見えられましたが、昭和八年十二月には、當時第二師團長にあら

せられた、現軍事參議官 東久邇宮殿下には、親しく此の館に駕を寄せられ、非常な光榮を蒙られた。宮殿下初め、幾多諸名士の方々に、最初香奠を差上げるか記念碑を建つるかいふ事から出發して、此の記念館の建設を見たのを開かれ、毎度度つたにない美譽さして、ほめて戴いてある次第であります。我輩炭礦は、翁が御生前非常な熱心な以つて企圖された所に、基き、目下着々として仕事を進めて居るのであります。尚吾々従業員は、翁の心を體して、一層奮勵努力し、以て地下の翁に應ふ所がなければならぬと考へるのであります。依つて此の十一月一ヶ月間を努力月と定め、次第であります。毎年此の十一月は特に吾等の満身の力を發揮して、仕事に精進し、以て是非、礦山の總親和總努力の趣旨に添ふ様に、あり度いと思ひます。さうぞ、大社長の遺訓「努力」の二字をお忘れないうやう御願ひする次第であります。

七、連沼氏の感話

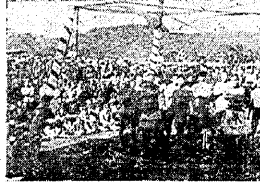
氏は磐城新聞社長として列席、式次第には無かつたのであるが、感極まつて突然壇上に立ち、莊重なる態度の偉大なる達辭を以て、故翁の勢、我軍備國防から觀た石炭液化に因る燃料國策を強調し、磐城炭礦を織り込んで、故翁に關する感話を述べた。

八、濱崎副所長の閉式の辭

壇上に立つた氏は、一通り閉式の辭を述べ、踵をかへして靈前に額づき、生ける

九、一般従業員焼香

式後午後一時より同七時迄、同待立、同下、同一般従業員、同焼香が行はれた。其數實に四三七七名を算し、電車は満員、停留場より記念館附近に、蜿蜒長蛇の行列、人々も秩序整然たるものあり、見る人をして感に堪へざらしめた。



携相悼追

十二、追悼相撲

午後より健康保險組合主催で、追悼相撲が行はれ、東十三点西十四点の得点にて、西方の勝となり、個人優勝者としては、鈴木幸七高橋幸造小室力の三氏、それぞれ一二三等の賞をうけた。



仕奉火落の團年少殿御

十三、少年團篝火奉仕

御殿少年團長荒木團員以下八名は、午後四時より同七時迄、記念館前に、篝火を焚いて、英霊を供養した。

十四、映畫撮影

長倉坑長前川孝一氏は、以上略述したる光景を、遂に十六ミリ映畫に收めたるを以て、完成の上は一般に公開せらるゝことと思はれる。

十五、結語

記者は、午後七時直前、一般焼香の終らんとする頃、再び参館して、靈前に讀經回向し、係員諸子の勞を稿ひ、焚く篝火に送られて歸宅し、燈下に此稿を書いたのであつた。

矢野 恒太序 大内民恵著 教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

淺野社長來止 坑内を視察せらる

乾燥室にて乾す始末なり。昇坑後事務所階上にて、社長は坑内圖を御覽ありたり。一、午後零時半記念館着、廣間に主任以上と午餐を

菅原所長より、一同奮勵努力、誓つて御期待に添ふべき旨の答詞を述べ。食後礦業所備品、二十余年前の幻燈を映寫觀覽に供す。

導相談一九。戸籍整理四。職業其他の紹介二六。教化一四。計一四二。登録世帯及人口第一種、世帯三七。人口一三九。第二種、世帯

日本評論社 内郷村報社

共全山の従業員が一層心を協せて
事業に精進致しますことな一同
を代表致しまして大社長の御前で
誓ふものであります

りますが、以来三ヶ年、各種幾
百回の催があり、深山の名士の方
も見えられましたが、昭和八年十
二月には、當時第二師團長にあ

壇上に立つた氏は、一通り
閉式の辭を述べ、踵をかへ
して靈前に額つき、生ける

本日追悼式参列者一同には
努力饅頭一箱と、焼香者一袋
同には森永キヤンデー一袋

のであつた。

矢野 恒太 大内民憲著 教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十錢 郵税六錢)

き語れる現代の教育制度を解體し
て、學理と實際と、歴史と實驗とを
新に大内案九主義を提唱す。天下
知名の士の賛同攻撃に違あらず。さ
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

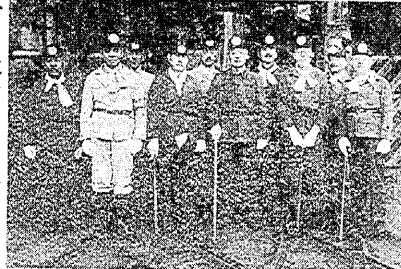
發行所 日本評論社
東京橋本三丁目
取次所 内郷村報社

淺野社長來止 坑内を視察せらる

磐城炭礦業所 濱崎善三郎

努力の權化、故淺野大社長七週忌
の祥月命日の、丁度一ヶ月前、現
淺野社長來山、親しく坑内迄も視
察して、従業員の勞を痛ひ、且つ
激勵せらる。此一文は濱崎副所長
が執筆したる、本社への報告であ
る。特に請ふて、其儘を此處に掲
載する事とした。

(民憲誌)



一行一長社るたし察視を内坑緩
役重部開左 書秘口山右 長社央中

一、過般北海道に於て行は
せられた、陸軍特別大演習
の砌、天皇陛下には、函館
にある淺野セメント工場に
侍從御差遣の御事あり、淺
野社長は、其爲め渡道せら
れたのであつたが、其歸途
去る十月十日午前六時五十
六分平驛着急行にて山口秘

乾燥室にて乾す始末なり。
昇坑後事務所階上にて、社
長は坑内圖を御覽ありたり
一、午後零時半記念館着、
廣間に主任以上と午餐を
共にせらる。社長は先づ立
ちて一同に向ひ「社運の隆
替は一に諸君従業員諸氏の
雙肩にあり勉勵せよ」との
御訓示あり。之に對して、

十月二十九日村會を開き、
家政女學校長へ退職慰勞金
支出の件、山林特賣代引下
の件、昭和十一年度内郷村
歳入歳出追加更正豫算議決
の件を附議決定後、満期と
なりたる村長の選舉を行ひ
たるに、満場一致を以て從

の爲に收容所建設に關する
件、及原泰一先生講演會開
催に關する件を協議し、收
容所敷地交渉委員に、田口
山下廣木齋藤四氏を擧げ、
野木力氏所有大字御厩字久
世原二八番地五十坪を借入
る、事に決定、三百五十圓
の豫算を以て、佐藤三平氏
社會奉仕的精神を以て之を
請負ひ、便所風呂井戸等
を附設する事になつた。因
みに此話を聞いて、仲繪藤
一氏は、金拾圓の寄附を申
出た。

沼田村長再選す

十月二十九日村會を開き、
家政女學校長へ退職慰勞金
支出の件、山林特賣代引下
の件、昭和十一年度内郷村
歳入歳出追加更正豫算議決
の件を附議決定後、満期と
なりたる村長の選舉を行ひ
たるに、満場一致を以て從



長村田沼るたし選再

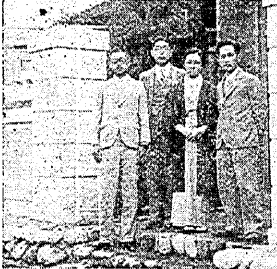
五位勳四等功五級沼田濱之
助氏を、再選して之を決定
した。

方面事業取扱數
十月中に於ける方面委員の
取扱ひたる件數は、生活扶
助、法令に依るもの、二八
保健救療、法令に依らざる
もの、一。兒童保護、法令
に依らざるもの、五〇。指

導相談一九。戶籍整理四。
職業其他の紹介二六。教化
一四。計一四二。登録世帯
及人口第一種、世帯三七。
人口一三九。第二種、世帯
八一、人口三五七。生活安
定、世帯一、人口二。死亡
世帯一、人口七。

齋藤齒科醫院

多年磐城炭礦技師として、
貢獻する處多大であつた、
故齋藤定一氏の息定輔氏は



院醫科齒藤齋
主院と人亡未央中

日大齒科を卒業後、東大其
他で研讀を積み、内町に開
業したるに、故人の關係と
院主の手腕とにより、門前
市をなして居る。

内郷村振興委員の選任

豫て村長より推薦中の、本村振興委員選任令が、此程縣知事より交付せられたるを以て、十一月十三日村會議事堂に於て、嚴肅なる傳達式を擧行し、聲明を宣方針座談的に今後協力を進め、其氏名は左の通りである。

- 久野藤二 廣木春之 廣木春一 遠藤正春 齋藤トミ 嘉納トミ 草野末吉 島田トミ 沼田ひとし 鳥田トミ 仙治 野木トミ 吉田忠義 渡邊武明 渡邊忠義 渡邊武明

振興委員講習會

十一月十二日午前九時三十分より、午後四時迄、平第三小學校に於て縣主催の振興委員講習會が開かれ、本村より代表として山口、三、佐藤、大内、常、弘、島、田、村、長、及、渡、邊、書、記、の、五、氏、が、出席し、講習會の趣旨を説明し、講習會の意義を説いた。

菊花品評會

本紙既報の松本隆好氏の主宰する秋芳會に於ては、九月七日より三日間、警炭體育道場に於て、菊花品評會が開催した。出品總數二百餘本。

内郷村振興委員會聲明書

今回新ニ市町村振興委員會規程ヲ制定セラレテ恒久的強力ナル活動團體トナシ更ニ小ナル區域ノ部落常會ヲ常設シ各其實情ニ應ジ有効適切ナル組織ノ下ニ系統的ナル活動ヲナシ當村振興ノ實ヲ舉グル爲本日委員ニ任命セラシ吾人責務ノ重キヲ痛感シ相協力シテ左記事項ヲ實施シ其任務ヲ達成センコトヲ期ス

- 一、公民道ヲ確立振作。二、選挙ノ肅正。三、自治ノ淨化刷新。四、村内の警備を進行して、且之を奨励す。五、本村に本村出身者及本村関係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。六、餘餘力を以て、國民養育に當る。

住吉坑出水

十月二十三早朝、住吉坑内探炭夫約五百人が就働せ、坑道に出水したるを以て、急遽ダムを築きて閉鎖し、其探炭夫はそれより町田兩坑に配屬せしめられた。其水量を測定するに、案外

敬老會

内郷村長及村内各小學校長主催で、十一月十一日午前十一時より、淺野翁頌徳記念館に於て、唱歌會を兼ねて敬老會を開催した。佐藤校長の開會の辭、國歌合唱、村長の挨拶、佐藤校長代理(來賓)總代大内民恵の祝辭等あり、十二番の唱遊合唱、演劇、能狂言史劇、選拔せられ、三百四十名の兒童に演ぜられ、最後に全村

お断り

北海道開拓記録及其他多數の記事は、餘白なきを以て次號に掲載いたしす。

榮養講習會

警炭健康保險組合主催、榮養研究所營養士田中喜平治氏を講師として、十月全一ヶ月間、金山從業員の主婦を約三十人づつを五日間づつ、六組に分けて開かれた講習會、榮養講習會修了證書授與式を十一月十日、淺野翁頌徳記念館に於て開式した。式に於て、淺野翁頌徳の講話、長崎の開式、長崎の講話、吉田中子氏の答辭、總代大内民恵の祝辭等あり、閉式した。同日、同席に於て、住吉坑出水の際、炊出しに盡力したる、濱崎副所長より、金一封を贈つて表彰した。



警炭健康保險組合主催榮養講習會記念會

生徒作品展覽會

内郷村家政女學校に於て、十月二十六日より二日間、生徒製品展覧會を開催。出品點數一三二七点、賣上總額一〇七圓八七錢。食堂賣上げ五〇圓八三錢の好成績をあげた。

本紙發行は大内一家の事業に於て、其の社務は子孫に對する遺書を發するものなり。

本紙發行は大内一家の事業に於て、其の社務は子孫に對する遺書を發するものなり。

内郷村報の六大使命

- 一、政黨政治を超越して、村力充實主義を標榜す。二、村内外各團體の活動状況を報導し併せて其協調を計り、組織和進努力の實現を期す。三、本村社會事業の徹底を期す。

天法人則

て、鄭重なる供養が執行せられ、參列者一同によつて深厚なる追悼式が舉行せらる。努力月號として、聊か其微衷をいたす事としたのである。以下其實況を少しく詳

消防部總代 林田 孝一 在郷軍人分會總代 前川 孝一 健康保險組合總代 伊藤 孝太郎